

しても、総事業費からそういう国庫補助、それから起債関係、これを除いたものについて、都の振興交付金がつけていただけるようなことになっております。そういう意味でこれにのせておかないと、振興交付金等についてのいただく場合の問題もございませうので、こういう形でこれはのせてございませう。今後、これが防衛補助か、その他の国庫補助かというようなことは、またこれから検討していくことになるかと思ひます。以上でございませう。

○福祉部長(生子国利君) 御質問の二点に私の方から御回答申し上げます。

まず一点につきましては、福祉会館の建設の際に、慶弔の場というものを考えられるかどうかという点でございませうが、この点につきましては検討委員会が設置された場合においては、それらを今のまゝして一応検討に入りたいというふうに考えられております。

それからもう一点、ペンダントの関係で緊急通報システムの関係でございませうが、この関係につきましては、現在、福祉協議会におきまして地区活動のモデル地区をつくられておりますが、それらの中で現在調査を行っております。したがって、緊急通報協力員の設定ができれば、市側としてはこれらの設置について

準備をいたしたいというふうに考えております。以上です。

○十九番(宮沢良一君)

駐車場の地下の調査費なんていうのを聞き漏れとかお聞きしたかったんだけれども、これをひとつもう一遍、もうほかは周辺を採ともなかなか駐車場の取得に大変なんだということではございませうので、市民会館の地下駐車場の設置ができるかどうか、これ調査費をぜひひとつ組んでいただきたい。この件についてももう一遍ひとつ答弁願いたいと思ひます。

慶弔の場についてでございませうが、そういうものも含めて検討していただきたいということです。市民の強い要望でございませうので、ぜひそういうものも取り入れていただきたい、このように要望いたします。

ペンダントについては、協力者ができ次第ということで大分煮詰まっております。ようでもございませうので、この件については期待しております。

それから、行政圏の中での駐車場の設置でございませうが、これはわかりました。いずれにしても防衛補助事業が一般財源かということになってくるわけですから、やはり駐車場についてはどうしても新しいメニュー開拓ということで、もういろいろ補助事業対象の事業がなくなつてきているわけですから、そ

ういう面では行革審では、福生市の商業は、今まで西多摩地域における商業拠点として長年にわたり指導的地位を保持してきた。しかしながら、近年、立川、昭島、八王子に商業施設の近代化、大規模店、近隣市町の大規模店などで、福生市の商圈は徐々に厳しくなってきた。したがって、今後、商店街機能強化の対応策や駐車場、駐輪場の設置、商店街活動の活性化等を含め企業意識の向上を図ることが大事だ。したがって、御案内のよう駐車場、駐輪場が必要だと、このように言っているわけです。

前回も述べたように、パチンコは烟の真ん中であって栄えているわけですから、大きな駐車場があれば。また防衛補助事業について、行革では早急に中・長期計画の策定を行う中で、新たなメニューをつくる必要だと言っております。したがって、先ほど市長さんどうも弱腰のような、このメニュー開発については大変だというように私はとたんですけれども、大変はこれはもう当然です、新しいメニューを開発していく上においては、相当な努力と決意が必要なのです。

そういうことで、これはやはり一丸となって、この防衛補助事業の新しいメニュー

を開拓していく。その一つの、まず駐車場の獲得ということで、どうしてもこれは頑張っていたきたいと、このように思っているわけです。

それから、飛び飛びになりますけれども、総合福祉センターの件ですけれども、土地の取得ですけれども、取得についてはいろいろ物色しているということでございますが、それでは一体どのぐらいの規模の土地を見つけておられるのか。大体およそ計画しておられると思うんですけれども。その辺をどのぐらいの規模の土地を見つけておられるのか、その点をお聞かせ願いたいと思います。とりあえずその二点です。

○福祉部長（生子国利君） それでは、総合福祉センターの計画としての用地はどの程度がいかにいうことですが、これは多にこしたことはないと思っておりますが、ただ、理想としては最低限六千平米ぐらいはほしい。という事は、現在福祉会館そのものが、大体あれ二千七百平米ぐらいです。敷地としては、建物としては大体二千平米程度です。建物としては三千平米ぐらいが我々としての理想ではないかということで、立川市あたりでも大体その程度の規模の一面積は一万平米ぐらい持っておりますけれども、そんなような計画を立てておりますが、福

生としては先ほども申しました用地の問題等もありますけれども、一応その程度の人口から老人の場合を見ますと、大体その程度で三千平米ぐらいの建物が理想的にいけるのではないかと、いつうに考えています。したがって、用地は六千ぐらいが理想としてはほしいということです。以上です。

○助役(古谷徳男君) 自席からお答え申し上げます。

市民会館の地下駐車場の調査の関係ですけれども、いろいろあそびがグラインドあり、あとは公園の一部、あと市民会館、そういった地域でございますので、そこら辺の地下の果たして駐車場ができるかできないかという地形の関係、あと八高線の線路の関係、こういった地域もございますので、これらについては技術的問題、あるいはいろいろつくった後の経常経費の問題等もあるのですけれども、そこり辺も含めて、今後そういった検討をさせていただきたいとこのように思います。

○議長(森田治男君) 十九番 宮沢良一君。四回目になりますので。

○十九番(宮沢良一君) もう要望しかないね。これは、やはり私もおとなしいが、余り強く言えないんです。やはりそれは一つは職員の省えも一生懸命やっておられるということはよくわかっています。一昨年ですか、一般質問で、市庁舎は灰色

だなんてちょっと強いことを言ってしまったけれども、その後どうか皆さん本当に頑張っておられることは事実です。一昨年の灰色からバラ色とまではいかないけれども、頑張っておられると。その一つの例というのではないですけれども、熊川の仮称体育館取得の件についても、何とかつづまを合わされたというが、その努力ですね、何とか代わりの土地を取得するんだと、そういった努力は、これはもう大変高く評価します。今、ちよとまた相続税の問題もありますか、さうに努力されて、ばちと決めていただきたいと。

また、いろいろななか補助事業対象になるかならないか一生懸命努力して、橋上駅ですね、補助事業対象になった。それによって何億という金が浮いてくるわけですから、これはもう大きな成果だと思ふんです。それで一生懸命やっておられることはわかるわけです。

ただ、一生懸命やってやりがいがあるような、今後、これからやはり一生懸命頑張った、本当に頑張ったという場合に、市長さん、これはやはり特別ボーナスとか特別昇給とか、その課全体を表彰するとか——やはりいろいろな行革審では企業意識というふうなことを盛んに言われていますけれども、企業意識の

向上ということも大事だと思うのですけれども、その裏づけというか、やはり頑張った人にはそれだけの評価をしてあげると、こういったことが私は大事ではないかと思うので、この件についてはまた改めてプロジェクトチームでもつくっていただきたいようなお願いもしていただきたいと思います。

そういうことで、やはりひとつの大きな金のかかる事業に対しては、やはり議会、また市当局が一丸となって、これから福生市の、何回も言うようにすけれども福生市の百年の大計に立って、我々がやはり礎を築くんだと、そのような気持ちでひとつ頑張っていきたいと思っております。そういうことでこの次の――私は毎年九月に一般質問をやっているわけですが、一応来期また出るような、推薦されたわけですが、当選したりまた一般質問をやらせていただきますけれども、そのときはぜひ、こうだと、そのようなお互いに喜び合える成果を今から頑張っていきたいと思っております。以上です。

○議長(森田治男君) 次に、十一番 原敏子君。

(十一番 原敏子君 登壇)

○十一番(原敏子君) 一般質問をさせていただきます。

老人福祉対策について。

一点目。老人医療費のあり方についてお尋ねいたします。

敬老の日を数日後に控えて高齢者の方々のことを考えますと、何と高齢者の置かれている現実には厳しいものであると言わざるを得ません。最近の発表によりますと、我が国の人口に占める高齢者の割合は年ごとに高まっており、日本人の平均寿命も延びています。総務庁のまとめた昨年の国勢調査の速報集計結果によれば、我が国の六十五歳以上の老年人口は、総人口の二〇・二%を占めています。厚生省が明らかにした日本人の平均寿命は、男七十四・八四歳、女八十四・四六歳と高齢化社会は着実に進展しています。

今、この多くの高齢者が安心して老後を送っているかといえは、決してそうではありません。それどころかこの増大する高齢者の生活は苦しく、その改善が切実に求められています。特に健康については、高齢者の有病率は上昇しています。人口の千人に対して、六十五歳以上の病人は五百十二・四人となっています。その二人に一人は、高血圧や脳血管疾患などを患う病気の高齢者であります。

生活費はどうなっているかといえは、政府の統計によると、高齢者の一ヶ月の平均所得額は十七万八千八百円となっています。この所得のうち、年金の占める割合は五一・四％と、家計は働かなければ成り立たなくなっているのが現実です。ところが、高齢者の仕事はというと、六十歳を超える高齢者で定年退職後就職を希望する人は八〇％を超えますが、職にありつける者といえは、六十歳から六十五歳まで十人の求職者に対して一人、六十五歳を過ぎれば百人に対して四人しかいないという状況であります。六十歳から二十一年にも及ぶ長い老後をどう生活していったらいいかというのは、多くの高齢者に共通する大きな不安となっています。こうした健康の心配と生活の不安を抱えての老後を考えると、家族の負担と苦勞は並み大抵のことではありません。

こういう社会情勢の中で、さらに追い打ちをかけるように老人医療費の有料化が実施されて三年を経過しました。そしてまた政府は老人医療費の自己負担分を大幅に引き上げようとして計画しています。新聞報道によりますと、秋の臨時国会で老人保健法改悪案を提出するという事です。今でも高齢者の健康と生活は不安の中にあるのに、外来一ヶ月千円、入院一日五百円という自己

負担の引き上げを予定しているのです。高齢者の医療費軽減、無料化については、私もさきに一般質問をし市長の見解をお尋ねいたしましたが、年々増加する高齢者への施策として、医療費のあり方について再度お尋ねしたいと思ひます。福生市では、現状のままの医療費では自己負担分千五百円程度と思ひますが、これを無料ないしは軽減するために、基金をつくり高齢者の健康と生活を守る施策を進めてほしいと思ひます。市長の見解をお尋ねしたいと思ひます。

二点目に、民間特別養護老人ホームと老人対策について質問いたします。市内に、民間による特別養護老人ホームが、来年十月に開設されると聞いております。年々増加する高齢者のために、特別養護老人ホームができることは結構なことだと思いますが、この老人ホームが市民にとってどのように関係してくるのかということ、この老人ホームが福生市の老人対策の中にどのように生かされてくるのか、まず一点お尋ねいたします。

二点目に、現在、高齢者の入浴サービスやショートステイ事業は秋川の松楓園で実施しておりますが、その関係はどうなるのかということ。

三、点目。最後に市長にお尋ねいたしますが、老人福祉について市長の基本的な考え方をお尋ねいたします。

次に、米軍横田基地についてお尋ねいたします。

平和と基地についてお尋ねいたします。

戦後四十一年を経過して、つくづく平和とは何かということを考えるとき、今本当に平和なのだろうかという疑問がわいてきます。一人一人にとって、平和とはいろんな意味、感じ方があると思いますが、私たち福生市に居住する市民にとって基地があるために、日々平和を毎月かまれた生活をしていると、私は思います。

先日（八月三十日、三十一日）の横田基地カーニバルの中で、三十一日に行われましたブルーインパルス（Blue Impulse）の曲技飛行は、その日だけでなく数日前から訓練のための飛行で、市内に騒音をまき散らしました。市民にとって、あの騒音は苦痛だけの何物でもありませんでした。先日三十一日は、耳を押さえても耐えがたい騒音であり、電話での通話や家族の会話をさええない状況を生み出し、また急上昇、急降下をするために、もし事故でも起きたりという不安を市民に与えました。しかも、このブルーインパルスは、かつて浜松基地においてアクロバット飛行中、墜落

炎上、パイロットの死亡と、住民に大きな被害を与える事故を起こした前歴があり、その危険性は明らかなのです。通常でも私たち市民は航空機騒音によって生活が脅かされ、墜落の危険等に悩まされ続けているのです。私は横田基地司令官に、このような状況の中での曲技飛行の中止を要請いたしました。また、田村市長に対しても、この飛行の中止を米軍と関係機関に申し入れてほしいと要請しましたが、現実には実施され、騒音に悩む市民に多大な苦痛をもたうしました。市長はこのようなことについてどのように対処されたかお尋ねいたします。

また、基地があるために市民の生活は日々脅かされ騒音に悩まされ、これで平和と言えるのだろうか。私は、平和とは基地がなく戦争へ巻き込まれる不安のない生活を送ることが、本当の平和であると考えております。平和な福生市でありたい、平和な世の中で暮らしたいというのは、ただ福生市民だけでなく国民すべての願いだと思います。その平和を脅かす他国の基地、米軍横田基地について、先日（八月三十日）の飛行を含めて、市長は平和とはどのように考えられているのかお尋ねしたいと思います。

以上、私の一般質問といたします。

(市長 田村匡雄君 登壇)

○市長(田村匡雄君) 原議員さんの御質問にお答えいたします。

最初に、老人福祉対策でございます。

老人医療費の患者負担の引き上げについての政府原案は、さきの国会で廃案になったわけですが、今後とも再提出される見込みでございます。この原案が、高齢化社会の中で適正かどうかをめぐって十分審議されるものと思っております。今後のその動向を見守りたいと思っております。

それから基金等の件については、現在のところこの件については考えておりません。

次に、民間特別養護老人ホームと老人対策についてでございます。

我が国の急速な高齢化の進行は当市も例外でなく、年々老人人口が増加しております。老人に対する福祉施策がいろいろと求められてきております。このような中で、当市内に社会福祉法人により特別養護老人ホームの建設計画が出され、来年の十月には開設される予定のことです。今までは市外の遠

隔地の施設にお願いをしていたわけですが、当市に建設されますと、家族の方の施設の訪問が頻繁にできたり、緊急時の入所も可能など、また地域住民への意識の高揚を初めボランティア養成等、老人対策の拠点ともなうと思われまします。それより、老人対策でございますが、御承知のように、現在松楓園へ委託して実施しているところでございます。しかしながら、今後高齢者の人口増加、特に一人暮らしの老人等の増加が見込まれるのを考えますと、老人ホームやそれに代わる機能を持った施設が市内に設置されたとしても、すべてにこたえることは難しいものと考えておりますので、これからお願いしたいと思っております。

次に、横田基地について、平和と基地についてでございます。

まず初めに、ブルーインパルスのアクロバット飛行であります。御承知のように、毎年日米友好祭として航空ショーが開催されますが、本年は入場人員も十数万人と言われております。年々盛大になっております。

御指摘のブルーインパルスの飛行も、ショーの一環として飛行されております。そこで、飛行中止要請の件でございますが、原議員からのさきの中止要請につきましては、防衛施設庁に要請があった旨お話しをしております。しかし、

私といたしましては、多くの方々が期待をしておりますので、容認をせざるを得ないと判断をしております。中止要請はいたさないつもりでおります。しかし、飛行に当たり、安全性の確保については強く要請をいたしております。

次に墓地の存在についてでありますが、いつも申し上げているように、ない方が好ましいわけでございますが、国策上置かれてゐる以上、やむを得ないものと考えておるわけでございます。また、その代償といたしまして、防衛施設庁に予算要望等を要請してまいりたいと思ひます。

以上、答弁とさせていただきます。

○十一番(原敏子君)
それでは議席から再質問させていただきます。

今の老人福祉の方から順番に再質問させていただきたいと思ひますけれども、
今、市長の答弁で、言ってみれば老人医療費の無料化、基金なども考えてい
ないということですが、それで国会で——さきの国会は解散しましたのであれは廃
案になりましたけれども、この秋にまたこの老人保健法が改悪される、こういう議案
が提出されるというようなのが、先月の八月二十七日の新聞に報道されて、厚生
省が二十六日に、そういう厚生省の予算の概算要求の中で、こういうふうになって今

度の秋の臨時国会に提出するんだということが新聞報道されましたので、これまでもどおり、先ほど登壇して私が言いましたように、外来が千円で入院が五百円、こういう老人保健法の改悪が、これまでと同じようなものが、また国会に提案されるのではないかということが、ほぼ確定していると思うんです。

それで、これが出てくるのを状況を見守りたい。そうするとこれが国会で審議されて、審議の過程の中で、例えば今は自民党が多数ですから、値上げが通った場合、改悪された場合、その場合から考えていくというふうに考えてよろしいんです。うか。今、市長は、私は福生市には積み込んだお金が、ため込んだお金が何十億とあるのだから、そこから本当の何億か基金に積み立てれば、その利子でお年寄りの医療費が無料になるのではないかと、このように提案したつもりですけれども、その考えはないというふうなことです。が、それでは国会が、この新聞報道では、この秋の臨時国会でこれが通った場合、そして六十三年度から老人保健法が改悪されてお年寄りの自己負担が高くなった場合、その時点から考えていくというふうに考えて、お答えをいただいたというふうに考えてよろしいんです。今、市長の答弁では、今度出てくるかもしれないので、状況を見守りたい。状況を見守

るだけは大抵でもできるので、ここから先市長としてどういふような施策をとっていかれるのかというところをお聞きしたいと思います。

それと、この特別養護老人ホームの件ではよくわかりました。そうすると、特別養護老人ホームができて、今まで行っている松楓園でお願いしていることもままなそういう事業はそのまま引き継いで、来年十月の開設ですかりどういふふうになるかわかりませんが、そういう時点で、言ってみれば福生市民にとってはああいふような特別養護老人ホームが福生市にできれば、非常に高齢者を抱えた福生市民、またその高齢者当事者の方たちは、非常に住みやすくなるというふうに考えていいと思いますけれども、私は一つには、せっかく近くに市内にそういう特別養護老人ホームができるならば、例えば入浴サービスとかショートステイだとか、秋川も結構ですけれどもそういうところも当然高齢者がふえるわけですから、高齢者人口がふえるわけだから、たくさんそういう施設が必要になると思っていますので、今度できるそういう特別養護老人ホームにも、今までも秋川の秋楓園ト行、いろいろな施策を取り入れてもらうようにぜひ指導していただきたいし、この特別養護老人ホームができるということも、市民の皆さんにもやはり

りお知らせをさせていただいて、市街地の中にできるものですから、ぜひ多くの方に利用していただければいいのではないかと、いふふうに思っています。

最後に、老人対策のことで市長にどうしてもお尋ねしたい人ですけれども、市長が考えられている老人福祉対策というのは、どういふものかなということなんです。言ってみれば今度できる来年の十月に開設される特別養護老人ホームも民間のものですね。本当に、けさほど赤星議員が一般質問されましたけれども、社協が出した「福生市における老人の暮らしと在宅福祉への提言」というのを見ましても、今は福生は高齢人口は六・三%なんです。これで見ますと全国的には一〇%を超えていますから、十年後、昭和七十年には福生市の高齢人口は一三%から一四%になる。これはけさほど赤星議員も言われましたけれども、こうなるんです。それでこの社協の中で、老人に福生市における老人福祉の現状のアンケートをとった中で、福生の中で生活費一ヵ月五万円未満で生活をしている人が二九・八%いる。そういうふうなことをずっとアンケートをとりながら、この老人の在宅福祉の提言の中で、まとめではこういうふうにある人です。

これを私は市役所からいただいたから市長もごらんになったと思いますけれども、

この一二のページには、「確かに一方では豊かな社会という様相を呈しているが、そして社会福祉の領域でも、有料化、受益者負担が当然視されつつある。そして真に社会福祉のサービス、援助を必要としている者は、同時に経済的にも貧困であるという深刻な実態がある」。二ついうふうにいるんなアンケートをとてみれば、やはり経済的に大変な人が多いんだと。それでこの結果では、「社会福祉の使命は豊かな側面を見ることではない。豊かな中でのより深い貧困を注視することである」。二ついうことを、やはりこの中ではまとめていくわけです。

私は、この老人医療費の問題、老人福祉の問題、昨年の九月議会とこししの三月議会で質問してはるわけなんですけれども、登壇して言いましたように、医療費の問題だけ見ても、福生市では千五百万円あれば、今の自己負担分では千五百万円あれば、お年寄りの医療費が全部無料になるわけです。今度の秋の臨時国会でもしも値上げされたとしても、約三千七百万円あればお年寄りの医療費は無料化されるわけです。そうすると、幾々の基金を積みあげればこれは無料になるというふうには、私はおのずから出ると思うんですけれども、それを

する気がないということは、市長の老人福祉対策、市長が考えられている老人福祉対策とはどういふものなのかということも再度お聞きしたくなるんですけれども、その点、そこをもう一度聞かせていただきたいというふうに思うんです。市長が考えられている老人福祉対策というのはどういふものなのかということも聞かせてください。それと横田基地の問題ですけれども、私は確かに市長に中止要請をしてほしいというお願いに伺いまして、市長が、私が要請したことは言ってみれば関係機関や米軍に言っていたらという答弁をいただきましたけれども、ちょっと気になったのは、「ただ私としては多くの人が期待をしているので、中止要請はしない」と。市長としては中止要請はしないんだということですね。それで基地があることはやむを得ないということ、これは再三のおれですけれども、じゃあ市長にお尋ねしたいんですけれども、一点目お尋ねしたいんですけれども、このブルーインパルスというものが浜松で事故を起こしたわけなんですけれども、一九八二年の十一月に自衛隊の浜松基地で、やはり航空祭で十万人の観客の中で落ちて炎上して、操縦していた隊員が死ぬと。それで付近の住民の十二人の人たちが重軽傷を負って、普通の民家が四棟全焼した。